

氣多大社

氣多大社は、能登半島にある神道神社のなかでも、最も人目を引く。この神社は、恋愛の神・大国主命を祀っているため、恋愛を求める人々の間で人気である。

氣多大社は、2,000 年以上前から何らかの形で存在していた、と信じられている。この名が初めて登場したのは、8 世紀の日本で一番古い詩集『万葉集』である。現在に残る最も古い建物の中には、1584 年から残る神門と 1654 年から残る拝殿がある。

この神社は、立ち入り禁止の「入らずの森」あるいは「禁制の森」と呼ばれる聖なる森林に囲まれている。奥宮は森の奥深くにあり、宮司しか入ることができない。

氣多大社は、二つの年中祭時で有名である。一つが、3 月 18 日から 23 日まで行われる平国祭。この祭では、大行列が能登半島を通り、約 30km 離れた七尾の主要分社まで氣多大社の神を運ぶ。二つ目の祭が鵜祭。七尾で捕獲され、神とみなされた鵜とともに始まる。この鵜が、3 日間の旅を経て氣多大社に運ばれる。この鵜は、12 月 16 日の日の出前に放たれ、神社に対してどのように飛んでいくかにより、翌年の運勢を占う。